

---

◎町長行政報告

○議長（藤井 要君） 日程第4、町長の行政報告を行います。

町長から報告の申し出がありますので、これを許します。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 令和元年松崎町議会第2回定例会の開会にあたり、謹んで行政報告を申し上げます。

平成から令和に改元してから、早や1か月を経過いたしました。

私は、今年度、選挙公約に掲げた事業を中心に自立に向けた魅力ある町づくりを展開し、産業振興や町民満足度の高い町づくりを、実りあるものとする元年としたいと考えております。そのための三本の柱となる施策が「農林水産観光業の一体推進による経済活性化」・「災害に強い町づくり」・「医療・福祉の充実」であり、これらの実現に向けた取り組みを進めて行く所存でございます。

町に賑わいを取り戻すことは一朝にして出来るものではありませんが、こういうときこそ官民一体となり、知恵を出し、汗をかきながら難局を乗り越えていくことが必要であると感じているところでございます。

なお、4月以降の話題としては、念願でありました駿河湾フェリーの運航継続につきましても、県や関係市町等との協議の結果、運航を継続することができました。国道136号雲見・石部間で大型車との擦れ違いが困難であった狭隘区間においてはミニバイパスが完成し、供用開始されましたことも喜ばしいニュースであります。また、伊豆縦貫自動車道の工事も順調に進捗していることから、トンネル工事に伴う発生土の鮎川地区への搬入が始まり、今後は、基盤整備事業を行う予定でございます。

今後の町政運営に関しましては、本定例会終了後には、町政懇談会を開催し、計画する事業について住民の皆様にご丁寧に説明するとともに、広くご意見を伺って、施策に反映していきたいと考えております。

今後とも行政諸般につきまして議員の皆様と議論を重ねながら、進めてまいり所存でありますので、皆さまのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、「町営観光施設の入館状況について」他3件についてご報告いたします。詳細は担当課長より申し上げます。

○企画観光課長（高橋良延君） それでは、企画観光課から3件の行政報告をさせていただきます

ます。

はじめに、町営観光施設の入館状況について資料No.1によりご報告をさせていただきます。

まず、1ページをお願いいたします。

初めに、「伊豆まつぎ荘」の状況でございます。左側に30年度、29年度の比較、右側に本年度、前年度の月間の比較ということで、記載をしております。

数字につきましては全て税込みの金額で表示をしておりますのでご承知下さい。まず、30年度の利益につきましては、362万円のマイナスでございます。昨年度より466万5千円の利益減となりました。なお、30年度の詳細につきましては、本議会で決算審議をお願いしておりますので、詳細につきましては省略をさせていただきます。右側に4月の実績がございます。宿泊利用人員につきましては、35人減1,618人でございます。それから、入浴、休憩利用人員を加えました、施設の利用者の合計人数につきましては、昨年の4月期より234人増の2,791人となりました。

収益につきましては、前年度より6千円ほど増加いたしまして2,357万3千円となりました。また、一方、費用でございますが、交際費、減価償却費を加えました事業費用につきましては、前年度より24万8千円ほど増加いたしまして2,451万8千円となりました。最終、差引利益につきましては、マイナス94万5千円となり、前年度より、24万2千円程の利益減となっております。

続きまして、2ページをお願いします。2ページにつきましては、まず、伊豆の長八美術館でございます。4月末の状況であります。昨年同期と比べまして18人程の増の2,026人の利用者でございました。収支の差額といたしましては、マイナスの37万6千円で前年度より3万4千円ほど、若干マイナスという事で、4月の状況は以上でございます。

続いて、重文岩科学学校であります。4月末におきましては、前年比127人減、1,426人の利用でございました。収支の差額につきましては、マイナスの52万4千円で前年度より3万6千円ほどのマイナスの状況でございます。

続いて、3ページをお願いいたします。明治商家中瀬邸でございます。4月末におきましては、前年比14人増の1,067人の利用でございました。収支の差額につきましては、マイナスの40万2千円でございます。しかしながら、前年度より1万6千円ほどですが、若干の改善という事になっている状況でございます。

続いて民芸館でございます。民芸館の4月末におきましては、前年比21人増の549人の利用

でございました。収支差額につきましては、マイナス41万5千円となりましたが、前年度より2万4千円ほど、若干の収支の改善という事でございます。

最後に、4ページをお願いいたします。道の駅花の三聖苑でございます。4月末の状況でございますが、前年比739人増の4,460人となりました。収支差額につきましては、マイナス72万1千円ということで、前年度より6千円程マイナスという事で、ほぼ前年並みという事でございました。

伊豆まつざき荘につきましては、本年は桜の開花・・・非常に松崎町は順調でございましたけれど、宿泊の方は思ったほど伸びず、ほぼ前年並みという事でございました。一方で、会食の利用者については増加いたしまして、最終的に収益については、前年並みを確保することができました。なお、その他入館・入浴施設につきましては、重文岩科学学校を除く4施設では利用人員が増になっておりますが、まだまだ厳しい状況でございます。

本年は10連休がございました。10連休に多くのお客様にご利用していただきまして、前年比2桁以上の利用実績がありましたけれど、今後とも観光協会と連携を密にして観光素材の提供情報発信、積極的営業活動を行いまして、誘客宣伝を展開してまいります。

以上、町営観光施設の入館状況についてのご報告とさせていただきます。

続きまして、ふるさと納税の寄附状況について、資料No.2によりご報告をさせていただきます。ふるさと納税につきましては、寄附金額によりまして、返礼品を用意しております。松崎町においては32業者153品目を返礼品として、ご用意しております。これらをウェブサイトで紹介したり、クレジット決済のシステムを取り入れて、ふるさと納税の確保に努めております。

平成30年度の状況について申し上げます。寄附件数につきましては1,367件、寄附総額2,886万2,270円となりました。前年度、平成29年度と比較いたしますと、件数では84件の減となりましたけれども、寄附金額においては126万5,770円の増となりました。納付方法別ランキングというのがございますが、クレジットによるものが約90%を占めております。また、寄附の県別では、東京都、静岡県、愛知県の順に寄附が多い順になっております。また、寄附の使い方、用途につきましては、自治体にお任せするという方が最も多くなっているのが現状でございます。また、平成30年度におきましては、ふるさと納税の新たな取り組みいたしまして、ガバメントクラウドファンディングを行いました。これにより、地元や観光客の皆様にあふれていた、繭最中を復活させる事ができました。下に返礼品のランキングを記載してございますので、これはご確認下さい。

ふるさと納税は、昨年度から本年度にかけて大きな転換期となりました。自治体間での過度な返礼品競争が過熱いたしまして、本来のふるさと納税の趣旨が見失われた結果となった事から、国ではふるさと納税の返礼品は3割以下、地場産品に限るという基準を出しました。松崎町においても、この通達を受けまして、昨年事業者の説明会を開催いたし、返礼品の見直しと返礼割合を3割といたしたところでございます。また、今年度からはふるさと納税のポータルサイトを新たに追加いたしまして、間口拡大をはかり、ふるさと納税の確保に努めてまいりたいと思います。

続いて、一般社団法人、富士山駿河湾フェリー事業について、資料No.3によりご報告いたします。このほど新たな議会構成になりまして、改めて駿河湾フェリー継続運行に向けた取り組み、利用状況、今後の組織体制についてご説明いたします。

まず、1ページと2ページでございますが、1ページ、駿河湾フェリーにつきましては、昨年5月のフェリーの事業撤退の発表以来、駿河湾フェリーの継続に向けて関係市町ですとか、議会、業界団体等によりまして、県に対し要望活動を行ってまいりました。その後、8月から県と沿岸3市3町、これは松崎町も含まれます。この3市3町で組織する連絡会において、運行継続に向けて組織体制ですとか、負担金、利用促進などの協議を開始いたしました。2ページをお願いいたします。その上で、本年4月には、それまでのエスパルスドリームフェリーに変わりました運営を担う一般社団法人富士山駿河湾フェリーの設立を行い、この6月から一般社団法人による運行に移行いたしました。

次に3ページと4ページにつきましては利用状況についてでございます。3ページをご覧ください。駿河湾フェリー、平成30年度の利用状況につきましては、17万2,399人で前年比3.1%増となりました。特に県と3市3町で取り組みを開始した、昨年の10月以降の利用者につきましては、13%増と利用者を大きく増やす事ができました。4ページは今年度、5月15日までの利用者を掲載してございます。本年度は、前年度を上回る利用者で推移をいたしております。

最後に5ページをお願いいたします。これは、今後の駿河湾フェリー事業の体制となります。駿河湾フェリーの運行管理ですとか商品の企画、営業セールスなどの運営を一般社団法人が行いまして、運行についてはエスパルスドリームフェリーに委託するものでございます。

なお、一般社団法人をサポートするために、県と3市3町の行政・観光関係者等で組織する・・・表にはございますが、環駿河湾活性化協議会という組織で利用促進に向けた支援をしてまいるところでございます。駿河湾フェリーの利用者20万人の目標に向けて関係機関一体

となって利用促進に取り組んでいくこととしております。

以上、企画観光課から3件の御報告をさせていただきました。

○生活環境課長（鈴木悟君） それでは、生活環境課から行政報告の4番目公営企業会計平成31年4月末経営状況についてご報告をさせていただきます。

資料No.4をお願いします。始めに水道事業会計の方でございます。本年度4月末収益につきましては、営業収益、営業外収益合わせまして①になりますが、1,144万5千円、前年対比34万4千円、3.1%の増となっております。理由としましては、4月末現在の有収水量につきまして、75,120立米で営業用の使用水量の増などにより収益増となりました。また、予定収益を加えた事業収益の合計は④になりますが、1,244万5千円、前年対比33万3千円、2.7%の増となっております。一方、費用の方でございます。営業費用に予定を加えた合計は⑦になりますが816万円、前年対比7千円0.1%の増となっております。その結果、差引純利益につきましては28万5千円、前年対比32万6千円、8.2%の増となりました。

続きまして温泉事業会計になります。始めに収益の方でございます。営業収益、営業外収益合わせまして①になりますが、485万6千円、前年対比7万1千円1.4%の減となっております。昨年同期と比べ、権利放棄により、営業用が1件減少し、減となりました。予定収益を加えた事業収益の合計は④になりますが、503万9千円、前年対比7万2千円、1.4%の減となっております。一方、費用の方でございます。営業費用に予定費用を加えた合計は⑦になりますが、344万7千円、前年対比1万9千円、0.5%の減となっております。その結果、差引純利益につきましては159万2千円、前年対比5万3千円、3.2%の減となりました。水道事業会計につきましては、前年を上回っていますが、温泉事業会計につきましては、前年をやや下回っている状況でございます。しかし、水道事業においては、使用水量減少に伴う収益の減少が続いているところでございます。また、温泉事業については、収益確保のため引き続き新規加入の促進を図って行きたいと考えております。

以上、4月末公営企業会計の状況についての報告とさせていただきます。

○議長（藤井 要君） 以上で町長の行政報告を終わります。

暫時休憩します。

（午前 9時23分）